2019年10月発行

intertek news

Vol.66

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 おかげさまでISO9001認証組織件数1位になりました

02 03 特集 5S活動は古くて新しい改善手法

04 News&Topics
- FSSC22000 Version5 が発行
- AIAG&VDA FMEA ハンドブックが発行
- 審査員会議
- Information：ISO37001贈収賄防止マネジメントシステムのご紹介

05 審査の現場から
- お客様紹介（松本水道株式会社）
- 連載よみもの「審査員の心理」（環境編）「取組みの計画策定（3）～EVABAT～」

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ「富士山を映す」（審査員　野口 武行）
- 環境とISO14001「海洋プラスチック汚染」（その1）

07 お客様からのお便り
- 「東京五輪 米代表チームと契約」（和泉チエン株式会社）
- 「蓄電池付太陽光発電の普及を通して、争いのない世界へ」（スマートソーラー株式会社）

08 研修コースのご案内
- Information：JAB認定シンボルの使用終了について《重要》
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り（株式会社ダイツール技研）

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所　◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

◆バックナンバーは、弊社ホームページでご覧いただけます。

http://ba.intertek-jpn.com/

おかげさまでISO9001認証組織件数1位になりました

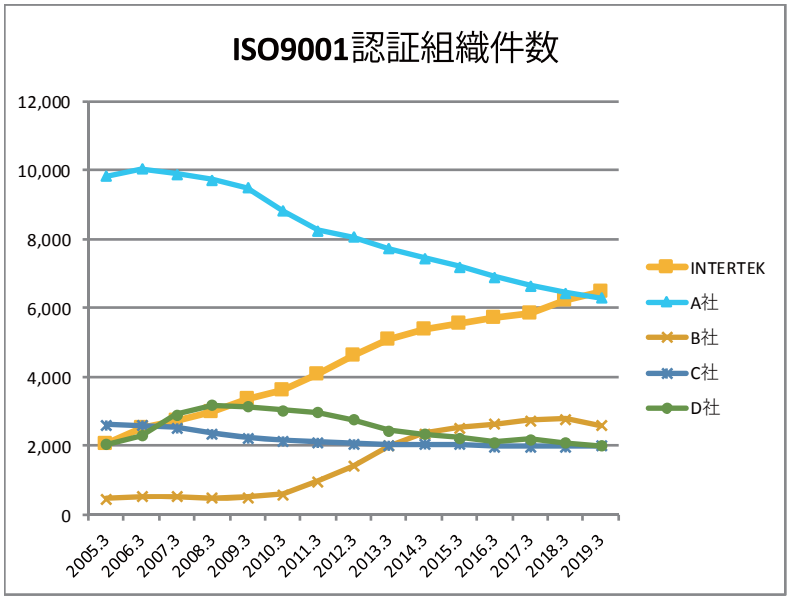
マーケティング部　村山（むらやま） 宏志（ひろし）

平素より、弊社の認証サービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

本年6月、公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）より2019年3月末時点のマネジメントシステム認証組織件数が公表され、おかげさまで弊社のISO9001品質マネジメントシステム（QMS）の認証組織件数が国内1位となりました。この調査は国内のISOマネジメントシステム規格の認証組織件数について認証機関ごとに集計され、年1回JABより公表されています。

弊社が認証サービスを開始しまして25年、多くのお客様のご支持と関係者の皆様の多大なご協力によりここまで辿り着くことが出来ました。心よりお礼申し上げます。

弊社は「お客様に付加価値をもたらす審査機関を目指し、また、認証を通してお客様の未来に変革と付加価値をもたらすことを理念とし、さらに効果のある審査で継続的改善を促す触媒として役立つ使命をもつ」を信念に認証審査登録活動を続けて参りました。その結果、2009年にはISOマネジメントシステム専門誌「アイソス」の審査機関満足度調査において総合1位を、その10年後にISO9001認証組織件数で1位を獲得することが出来ました。



出典：公益財団法人日本適合性認定協会

ただ、これはほんの通過点に過ぎません。これからも、我々のVision & Mission の基本理念をもとに、名実ともに日本の審査機関の模範となることを目指し、お客様の企業価値向上に直結した付加価値のある審査を実施してまいります。
引き続き、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

5S活動は古くて新しい改善手法

インターテック品質審査員
山田　耕一

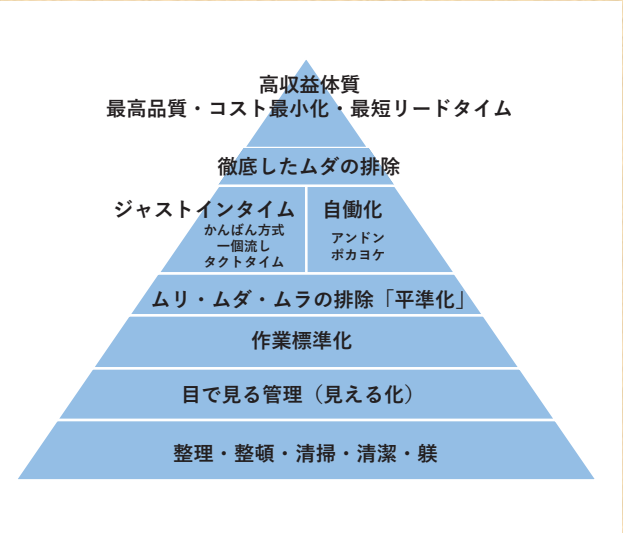
特集

職場環境の維持・改善で用いられるスローガンである5S活動は、品質と生産性を高めるために有効な手法です。5S活動を一過性のものではなく、継続的な活動につなげるための取組みに向けて、5S活動の概要、目的、効果、ISO9001との関係性などについて解説します。導入検討・活性化のご参考にしていただければ幸いです。（編集部）

0 はじめに

整理(Seiri)、整頓(Seiton)、清掃(Seisou)、清潔(Seiketsu)、躾(Shitsuke)の頭文字のSをとった5Sは、業務の効率化や職場の活性化の手法の一つで、1950年頃よりトヨタ生産方式(TPS)の「徹底したムダの排除」および「目で見る管理」の根幹として製造現場から始まり、昨今はサービス業でも多く取組まれ作業現場のみならず事務所でも効果を発揮しています。

一方、導入の糸口がみつからない、活動が定着しない、せっかく実施した活動が元に戻ってしまうケースも多々見受けられます。



1 活動の妨げとなる誤解

5S活動に対して次のような誤解を見受けることがあります。

1. 製造現場や事務所を清掃し、キレイにものを並べる活動

5S活動は単なる清掃活動や美化活動ではありません!!　徹底したムダを取る活動で、その活動を通して結果として職場がキレイになります。

2. 忙しい業務の中で活動を行うので、短期間に成果を上げて活動を終了したい

短期間の活動で持続的な効果が現れるものではありません!!　また、外部内部の変化に追随して、活動も変化していく必要があります。

3. とにかく5S活動を行えば業務効率の改善、組織の活性化につながる

5S活動を行うことが目的ではありません!!　本来の目的である高収益体質化を実現するための品質、コスト、納期の改善目標を達成する手段です。

4. 5Sはハードルが高いので、とりあえず2Sか3Sで十分

活動の成果を維持するために重要な清潔、躾を行わなければ、元の状態に戻り労力がムダになります!!

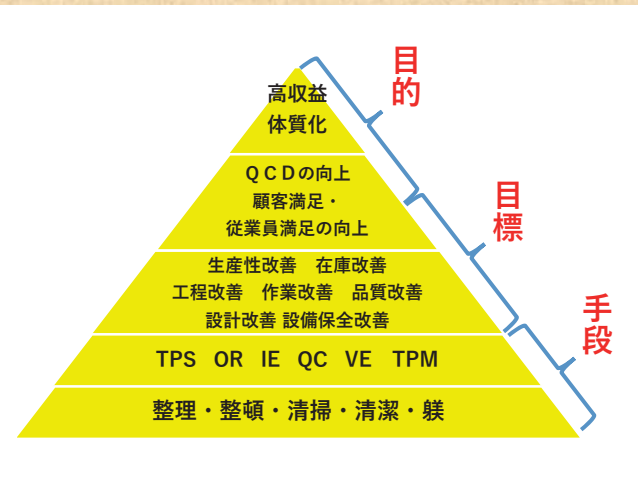
5.組織の活性化のためにボトムアップ(自主的)活動で行うのがよい

活動をボトムアップで行うと目的が定まらず迷走することになります!! 5Sはトップダウン(組織的)の活動でボトムアップ(自主的)活動はそれを補完する役割です。

これらの誤解が解消しないまま活動が続くと遅かれ早かれ失敗要因となり、これらの誤解がないことが成功要因と言っても過言ではありません。

2 5S活動の目的につながる目標

①ムリムラをなくすことで作業ミスを防ぐ(整理・整頓)　:品質の向上
②見える化で遅れが分かる(整頓):納期遵守
③余分な仕掛の削減(整理)　:リードタイム短縮
(顧客満足の向上)
④探すムダをなくす(整頓):生産性の向上、コスト低減
⑤要るものだけしか作らない(整理):在庫削減
⑥不要なものを処分してムリのない配置(整理):スペース確保、安全性の向上
⑦キレイな整った職場になる(整理・整頓・清掃):従業員の満足の向上
⑧継続的な改善が進む(清潔・躾):従業員のやりがい



3 QMSとの親和性

QMSの年度目標で組織の強みの増大、弱みの低減を図ろうとするとき、具体的な活動がまさに5Sのテーマであることは多々見受けられます。

また、活動の運用面で有効性に寄与するように人々を積極的に参加させる点でも一致しています。

5S活動をQMSのマネジメントレビューや内部監査の対象に取り込むことで、活動が継続的な改善となる相乗効果も期待できます。

4 おわりに

現在5S活動が行われていない組織も今後取り組まれることで、またすでに取り組まれている組織もQMSとの連動を強くすることで組織の強みを強化できる有効な手段となり得ます。

筆者紹介

山田 耕一（やまだ こういち）

外資バルブメーカーでマネジメントとして20年にわたり生産・購買に従事。2016年に退職後、IMPコンサルティングを設立、生産現場改善コンサルタントとして活動すると共に、2018年よりISO9001審査員としても活動開始。
兵庫県芦屋市在住。

FSSC22000 Version5が発行

弊社ホームページでご案内の通り、6月4日、GFSI承認の食品安全マネジメントシステムであるFSSC22000の第5版が発行され、それに伴い、Version5での審査が2020年1月1日から開始されます。旧版のVersion4.1での審査は2019年12月31までとなりますのでご留意ください。Version4.1からVersion5へのアップグレード審査は、2020年1月1日～12月31日に実施される必要があるため、この期間の定期審査はアップグレード審査として実施されます。ご不明な点等ありましたら、弊社食品認証部(03-3669-7420)までお問い合わせください。

AIAG＆VDA FMEAハンドブックが発行

AIAG(全米自動車産業協会)は、6月にAIAG＆VDA FMEAハンドブックを発行しました。IATF16949(自動車産業向け品質マネジメントシステム)で要求されているコアツールの一つであるFMEA(故障モード影響解析)は、これまでAIAGとVDA(ドイツ自動車工業会)でそれぞれのリファレンス(参照)マニュアルが発行されていることで、事実上2つのスタンダードが併存し、品質保証上、これらのFMEAのどちらか、あるいは両方の習得が必要とされるケースがありましたが、今回AIAGとVDAにて共同でマニュアルを統合、共通化が図られ、その方法も新たに設定されることになりました。これに伴い、従来の手法の見直しや新しいハンドブックへの適用が求められることになると思われます。受審企業様は、各OEMをはじめとするご自身の自動車顧客に、従うべきかどうかご確認いただくとよいでしょう。ハンドブックは、AIAG等より購入が可能です。

審査員会議

弊社ではISO9001・14001・27001・45001などの規格別に年間複数回と、全規格合同で1回、審査員会議を行っています。8月に開催しましたISO9001/14001会議では、これからリーダーになる審査員を対象に行われました。

リーダー審査員になるにあたり、「審査での重要な視点」として、①審査の事前準備 ②審査を取り仕切るとは ③言及、判断したことの責任 ④最終報告義務　などについて説明があり、後半は、報告書・指摘事項記載のポイントや審査での不測の事態への対応など、実践に近い内容でグループワークが行われました。また、審査では、話しやすい雰囲気作りも大切なため、「傾聴」や「共感」を意識することをすすめており、会議でも、お客様への対応姿勢についてもあらためて確認しました。

審査員会議などを通した審査員への教育訓練により、お客様に付加価値を与える審査の実施に取り組んでおります。

INFORMATION

～マーケティング部より新規格紹介～

ISO37001 贈収賄防止マネジメントシステムのご紹介

企業を取り巻く環境が急速に変化する中、コンプライアンスへの取組み・徹底に対する重要性はますます高まっています。今回、コンプライアンスリスクの重要課題の一つとしてあげられる贈収賄の防止促進に関する国際規格、ISO37001:2016贈収賄防止マネジメントシステムについてご紹介します。

ISO37001贈収賄防止マネジメントシステムとは、2016年10月に発行された贈収賄や賄賂を防止するISOマネジメント規格になります。贈収賄や賄賂と聞いてもどこか遠くの出来事と捉えがちですが、世界銀行の調査によれば企業と個人が払う賄賂の金額は毎年1.5兆ドル(約165兆円)にものぼります。これは深刻な社会的、道徳的、経済的、政治的な懸念を引き起こし、正しいガバナンスを損ない、発展を阻害し、自由で公平な市場を歪め、健全な経済活動に多大な悪影響をもたらし、その結果、商品やサービスのコストを増加させると同時に、その品質までをも低下させ私達の暮らしに影響を及ぼすことになります。

日本の「不正競争防止法」をはじめ、米国「FCPA(連邦海外腐敗行為防止法)」、英国「UKBA(贈収賄防止法)」やOECD(経済協力開発機構)の「外国公務員贈賄防止条約」など各国や国際機関で法律や条約を整備し取り組んでいますが、一向になくなる気配はありません。そんな中、贈収賄や賄賂のリスクを洗い出し積極的に管理することで、誠実さ、透明性、コンプライアンス意識を高めることなどを企業文化に浸透させ問題を解決することを目指す規格としてISO37001は誕生しました。

贈収賄防止のマネジメントシステムですので贈収賄や賄賂のリスクが高い国などで事業を行う場合などに有効ですが、腐敗認識指数において贈収賄リスクが低いとされる国々、例えばデンマーク(180カ国中1位)やスウェーデン(同3位)、また日本(同18位)等においても残念ながら贈収賄は存在しますので有効に機能します。また別の角度から見てみますと、贈収賄や賄賂といったリスクを洗い出し管理する手法を確立しているということは、その組織の誠実さ、透明性、コンプライアンス意識を高める企業文化など、健全な経営を確立するため積極的に取り組んでいることを、そして社会的な要請になりつつあるSDGs(エスディージーズ:持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)などへの対応として株主をはじめとするステークホルダーや、社会へアピールすることが出来ます。ISO37001の認証は第三者である認証機関を通じ取得するものになりますので、よりその信頼性が高いものとなります。

ご興味がありましたら、弊社東京事務所マーケティング部(03-3669-7435)までお気軽にお問い合わせください。

お客様紹介

松本水道株式会社 様

（ISO9001：2015認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄**
Hideo Mino

工事風景（水道本管工事）

松本水道株式会社様は、千葉県船橋市にて昭和43年に創業、当時は上水道が未整備の為、井戸の掘削事業がメインでした。昭和50年代から地元建設業の下請けで、建売住宅等管工事の施工が増え、その後、公共工事の割合を増やされています。

審査では、25年前に社長様がパソコンの電源の入れ方から教えた事務社員の方が、何でも出来るようになっていました。現場審査で、水道本管の更新工事現場に伺うと、同現場は、約50年前に松本水道様が枝管を敷設した現場であったりします。そんな時には、同社の成長が実感できると言えます。

松本社長様は若い頃には現場一筋でしたが、一昨年、74才で1級管資格を最年長記録的に取得、さらに、今年、76才で1級土木資格を最年長記録的に取得されました。

取得にあたっては、「やる気があれば取れる」をモットーに、娯楽や酒を控え、合格したら、高級なお酒を飲むことをご褒美に、継続した勉強を心がけ、夢でも勉強されるほど取り組まれました。本社事務所への出勤には愛犬を同伴され、会社では仕事を、自宅では勉強しているかを監視されているようだったそうです。次は、1級建設業経理士資格に挑戦されると、驚きの熱意を持たれています。

1級技術検定合格証明書

建設業法の規定に基づく平成30年度土木施工管理に関する1級の技術検定に合格したことを証し、1級土木施工管理技士と称することを認める。

平成31年2月15日

国土交通大臣 石井啓一

76才で合格「1級土木施工管理技士」合格証明書

社長様は、今後数年間の予定で、事業継承を計画されています。次期社長様は、まじめな性格で、今後、経営者として、いい意味で開き直ることが身に付くと、鬼に金棒とのことです。

https://www.matsumoto-suido.com/

連載よみもの

審査員の心理

第28回（環境編）

「取組みの計画策定（3）～EVABAT～」

環境主任審査員 **大村 敏夫**
Toshio Omura

規格「6.1.4 取組みの計画策定」の要求事項に「これらの取組みを計画するとき、組織は、技術上の選択肢、並びに財務上、運用上及び事業上の要求事項を考慮しなければならない。」という規定がありますが、これはEVABAT(Economically Viable Application of Best Available Technology)「すでに利用可能で、かつ経済的にも実行可能な最高の技術」という考え方で、ISO14001:2004までは「4.3.3 目的、目標及び実施計画」の中で規定されていました。目的・目標に限らず取組みには最善策を検討するという意味ですが、この要求事項の解釈には疑問を感じる場合があります。例えば、“技術上”、“財務上”、“運用上”、“事業上”の全ての条件を満たさなければ“取組み”に採用しない、としている場合などで、特に“財務上”の条件を根拠に、取り組まないことを正当化していると感じることがあります。必要な環境投資をコストとしか見ていない組織にとっては“財務上”の理由から取組みから逃れたいと考えるかもしれません。必要とされた取組みは実施しなければなりませんが、そのやり方については色々と考慮して Best Technology を選択しなければならないということだと思います。例えば、自動車の排ガス対策についての選択肢には、“燃料電池車の導入”、“ハイブリッド車や電気自動車の導入”、“エコドライブの徹底”などが挙げられたとします。“燃料電池車”はまだ普及しておらず、敢えて導入するには“財務上”の問題、燃料の補給スタンドが数少ないという“運用上”の難点があるということで、他の取組みを選択するという判断がされることはあるでしょう。

EVABATの誤まった解釈が環境方針にまで反映されている組織も見かけることがあります。例えば「経済的に可能な範囲で環境保全に取り組みます」などというコミットメントは、環境への取組みに条件をつけて、後ろ向きな姿勢を表明しているとも見られ、見直しをお薦めしています。

審査員リレーエッセイ ⑥④

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From
埼玉県東松山市
野口 武行
（のぐち たけゆき）

Profile
専門分野：ISO9001－自動車部品製造
経　　歴：野口精機株式会社、株式会社リード、インターテック審査員（現職）

「富士山を映す」

山中湖にて

若いころから、いろいろな研修会・セミナー・海外研修等に参加していましたが、40歳の年末、熱海の十国峠で、ある体験型の研修に参加した時、研修の最後にその研修センターの屋上から「富士山」を見たとき、今までにない「涙を流すほどの感動」をしてしまいました。そしてそれ以来、「富士山を映す」事が、趣味となって今日まで撮り続けています。 審査では、インターテックのVision「付加価値をもたらす審査」を基本に、ただ指摘をするのではなく、審査の中で、その企業に「変革」「やる気」を起こしていただくようなヒントを与えながら審査をすることを心掛けています。

連載「環境とISO14001」⑥④

「海洋プラスチック汚染」（その1）

環境主任審査員　郷古 宣昭 Nobuaki Goko

昨年から大きな話題になっている「海洋プラスチック汚染」とはどのような問題なのか、2回に分けて解説します。

1. プラスチック廃棄物

プラスチックが身の周りに大量に出始めたのは1970年代後半で、今や全世界で年間3億トンを超えています。この間、プラスチック素材は天然素材にはない軽量性、衛生性、加工性、生産性を備えた素材として極めて利便性の高い製品を提供してきました。しかし、プラスチックはその優れた特性ゆえに、自然界に放りだされても自然に還ることができず、長く残存することになります。

米カリフォルニア大学ガイヤー教授らの研究によると、2015年までに生産されたプラスチックの総量は83億トンでプラスチック廃棄物となった量は63億トン、その内12%が焼却され、9%がリサイクルされ、79%に相当する49億トンが埋立てや自然環境中に放出されているそうです。

2. 海洋を汚染するプラスチック

海岸に漂着するレジ袋、ペットボトル、破損した漁具等は海岸の景観を損ね、沿岸に棲息する動物の誤飲死を誘発することが知られていますが、最近、問題とされているのは「マイクロプラスチック」と称されている微細な(0.5ミリ以下の)プラスチック破片です。それらは、有害な化学物質を吸着して北極、南極に至る広い海域に分散し、魚介類を含む様々な海洋動物に捕食されていることが報告されています。

マイクロプラスチックは異なる起源ごとに分類されており、以下の4種が主なものです。

①プラスチック成型品の破片
②化学繊維の屑
③合成樹脂ペレット及びその破砕物
④樹脂微粒子が練り込まれた化粧品からの分離物

3. どこから出てきてどこへ行く

米ジョージア大学のジャンベック博士らによるプラスチック廃棄物（以下「廃プラ」と略す）の国別流出量の推計値を付表に示しました。排出量上位国はアジア・アフリカ等廃棄物管理能力の高くない途上国で占められています。中国が突出して高いのは、2017年まで日本を始め世界各国から大量の廃プラをリサイクル資源として集めていたためと思われます。

流出した廃プラは世界の五大亜熱帯還流に乗って拡散します。東南アジア・東アジアから流出した廃棄物は、黒潮に乗って北上し、日本近海を廃プラのホットスポットにしてしまいます。実際、東アジアの廃プラ濃度は世界平均の30倍が観察されています。また、マイクロプラスチックは海面近傍に限らず、中間深度にも存在し、さらには海底にも堆積していることが判明しています。2016年の世界経済フォーラムの報告書には「2050年迄に海洋中に存在するプラスチック量は重量ベースで魚の量を超える」との予測も紹介されています。

4. 海洋プラスチック汚染の国際動向

2016年6月「海洋及び海洋法に関する国連総会非公式協議プロセス」において、海洋プラスチック汚染を気候変動、生物多様性に並んで最重要地球環境問題と位置付け、2017年6月の国連海洋会議でプラスチック汚染対策として3Rの実施、特にレジ袋など使い捨てプラスチックの削減の呼びかけを行いました。そして、世界的な環境意識の高まりの中、グローバル企業を中心に様々な企業による脱プラスチック・脱使い捨て宣言が続いています。これはEUが進める新経済システム「サーキュラー・エコノミー」を加速させることに繋がるように思われます。

次回は対策を含めた国内・国外の動向を掘り下げてみます。

付表　廃プラスチック国別流出量（2010年）

1位	中国	240万トン
2位	インドネシア	89
3位	フィリピン	52
4位	ベトナム	51
5位	スリランカ	44
20位	アメリカ	8
30位	日本	4

出典：J.R.Jambeck:Sience,347,No6223,768-771

No.01 Letter

東京五輪 米代表チームと契約

和泉チエン株式会社（ISO9001:2015認証登録）

総務部次長　北村 友希

本社（大阪府阪南市）

弊社は関西唯一の自転車用チェーンの専門製作所として大正5年に創業、103年の歴史がありますが、IT化は遅く、現社長が入社した時は（2001年）、会社にパソコンが1台も無く、大変驚かれたようです。

弊社の強みについて、社長は「それぞれの業界で世界のトップに立つ二つの企業とお付き合いさせていただいていることです。トップ企業から発信される技術分野、品質管理分野などの最先端の情報は、勉強させられると同時に大きな刺激となっています。」と述べています。

またアメリカの自転車チームにトラック競技用チェーン「IZUMI-V」の供給をはじめ、USAサイクリング（アメリカ自転車競技連盟）とスポンサー契約を結びました。両者で駆動抵抗の少ないトラック用チェーンの共同開発を進め、東京五輪ではアメリカ代表チームに改良型の「IZUMI-V」の供給をします。

ISOについては、昨年の審査では、改善について、『ISO9000:2015「2.3.5改善」の「2.3.5.3主な便益」に示される「漸増的な改善」と「飛躍的な改善」の両方に対応できるQMSが構築されている。特に「漸増的な改善」を目指した提案制度が活発です。』とのコメントを頂きました。今後とも品質に磨きをかける所存です。

自転車用チェーン「IZUMI-V」

▶ http://www.izumichain.co.jp/

No.02 Letter

蓄電池付太陽光発電の普及を通して、争いのない世界へ

スマートソーラー株式会社（ISO9001:2015、ISO14001:2015認証登録）

品質保証部　王 娟（ワン ジェン）

本社・スマートソーラー技術研究所（千葉県木更津市）

当社は、2007年千葉県で創業し、2016年には東京本社、木更津技術研究所、京都支社の3か所で、ISO9001・14001を取得いたしました。

審査では「創業以来の太陽光発電システム開発に関するノウハウや技術を前提として、事業活動そのものが環境貢献を生む活動は、大きな環境パフォーマンスで社会に貢献し、顧客や利害関係者の厚い信頼を生んでいる」と、報告されています。

日本政府は2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指しており、当社としても「全ての人々に太陽光発電電力を化石電力より安く提供し、CO_2を削減することで、安心・安全で持続可能な社会を実現する」ことをミッションに掲げ、太陽光発電のエキスパート企業としての高い技術力と豊富な経験で、低炭素社会の実現に貢献致します。エネルギーによる争いを世界からなくすため、日本のみならず世界の環境貢献に努め、蓄電池付太陽光発電システムの面的普及拡大とその技術開発に取り組むとともに、今後も徹底した品質管理を行ってまいります。

技術研究所内の太陽光発電設備

▶ https://www.smartsolar.co.jp/

information

＝JAB認定シンボルの使用終了について＝ 〈重要〉

ISO9001・ISO14001のお客様各位

ISO9001及びISO14001のJAB認定で認証されているお客様には、すでにお送りしている書面の通り、弊社は2019年12月1日をもって、QMS、EMSのJAB認定を返上（認定維持の辞退）いたします。つきましては、次の通り改めてご連絡とお願いを申し上げます。

・お手元にあるJABの認証登録証明書は、有効期限が2019年12月以降の日付けであっても、2019年11月30日をもって無効となりますので、掲示等も含めてご使用はできなくなります。
お手数ですが組織様において破棄いただきますようお願いいたします。
・名刺やパンフレットのJAB認定シンボルも同様ですので、UKAS認定シンボルへの切り替えをお願いいたします。
・もしお手元に、UKAS認証書がまだ届いていないような場合は、弊社までご連絡ください。

＊ISO9001・ISO14001について、UKASとJABの認定は、IAF（国際認定機関フォーラム）のMLA（国際相互承認協定）のもと、効力が同等であることが保証されています。

【認証登録証明書に関するお問い合わせ先】
東京事務所 各規格認証部宛 Tel：03-3669-7408 Email：info.ba-japan@intertek.com

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（http://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）
  ※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程
- ISO9001・・・12/14（土）～18（水）
- ISO14001・・・決定次第、弊社ホームページにてご案内
- ISO45001・・・12/21（土）～23（月）

ヒューマンエラー防止セミナー

ヒューマンエラーの基礎知識から発生した場合の対策の考え方まで、演習を交えながら学びます。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 決定次第、弊社ホームページにてご案内

ISO14001を活用したSDGsセミナー

SDGs各目標に起因するリスクと機会、ISO14001を活用した対応について解説します。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 12/10（火）、2020/2/12（水）

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO9001：2015 内部監査員養成コースを受講して

品質内部監査員養成コース（2019年5月大阪会場）受講

株式会社ダイツール技研　柳別府 義典

当社は、冷間、温間、熱間鍛造用金型をはじめ、精密プレス用金型及び超硬耐磨工具の製造メーカーとして今日まで培った独自のノウハウで顧客のニーズに素早く対応すべく、高精度でより高品質な金型製品をご提供できる企業です。

今回、品質マネジメントの内部監査についての知識と理解を深め、社内の内部監査の業務対応の為に受講させて頂きました。

ISOのシステムに関しては知識が浅く、受講前は難しいイメージがありましたが、講師の方の説明が分かりやすく、また、ケーススタディで実際に内部監査を実地演習として行いアドバイスを頂くことで、内部監査員としての業務や手法を理解することが出来ました。

今後は、今回の研修で学んだことを活かして、内部監査員としての役割を果たしていきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 http://ba.intertek-jpn.com/
東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410 E-mail：info.ba-japan@intertek.com
※2018.12.1～ ビル名が変更になりました。
大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575 E-mail：info.ba-osaka@intertek.com